

NEWSLETTER

No. 47

8 January 2011

- ・2010年地理学教室の行事記録 1
- ・第10回地理ワークショップの開催 2
- ・国士舘大学国際交流セミナー「中国遼寧省・河北省の都市と文化遺産」報告 3
- ・2010年度地理学野外実習の記録 4
- ・国士舘大学地理学会巡検報告 8
- ・卒業論文公開口頭試験について 9
- ・2010年度卒業論文公開口頭試験日程 10
- ・国士舘大学地理学会費の納入について 12

【2010年地理学教室の行事記録】

- 2月 6日, 8日 2009年度卒業論文公開口頭試験
- 3月 19日 卒業証書授与式
- 5月 3日 ~ 5日 福島県農村実習(1) (宮地)
- 5月 5日 野外生物観察会(町田キャンパス:磯谷)
- 5月 23日 野外生物観察会(生田緑地:磯谷)
- 6月 1日 ~ 2日 地理学野外実習A(1年生実習)
(寺家ふるさと村, 町田駅周辺, 新百合ヶ丘~鶴川地区:野口, 長谷川, 内田, 岡島, 磯谷, 加藤, 宮地)
- 6月 12日 国士舘大学地理学会(世田谷校舎10号館10212教室)
<講演会> 品田光春先生(本学非常勤講師)「歴史地理学からみた新潟県の油田開発」
<総会>
<懇親会>34号館地下学生食堂
- 6月 25日 9月卒業論文公開口頭試験
- 7月 3日 ~ 4日 福島県農村実習(2) (宮地)
- 7月 30日 ~ 31日 第10回地理ワークショップ(中央図書館4FAVホール, 世田谷地域巡検)
「ちり散歩—国士舘スタッフが案内する最近の地理学の話題—」
(内田, 長谷川, 磯谷, 野口, 加藤, 宮地ほか) 参加者25名
- 8月 20日 ~ 31日 長谷川ゼミ沖縄実習(多良間島:長谷川)
- 8月 28日 ~ 29日 福島県農村実習(3) (宮地)
- 9月 6日 ~ 13日 国際交流セミナー(中華人民共和国:内田)
- 9月 7日 国士舘大学地理学会夏季巡検(横須賀:磯谷)
- 9月 24日 ~ 26日 福島県農村実習(4) (宮地)
- 10月 4日 ~ 5日 地理学野外実習B(2年生実習)
- 10月 26日 ~ 29日 地理学野外実習C(3年生実習)
- 10月 30日 ~ 31日 福島県農村実習(5) (宮地)
- 12月 18日 国士舘大学地理学会(世田谷校舎10号館10212教室)
<講演会> 長谷川裕彦先生(本学非常勤講師)「山に学ぶ」
<研究発表会> 押切せかい, 祐乗坊宏明, 鈴木里枝, 春山和彦, 清水達人, 一ノ瀬佳子,
小出俊介・都野守貴裕・三浦大貴
<懇親会>1号館地下 スエヒロ学生食堂
- 12月 24日 世田谷の歴史地理巡検(岡島)

【第10回地理ワークショップの開催】

「ちり散歩－国士館スタッフが案内する最近の地理学の話題－」
社会科教員のための地理ワークショップ

地理学教室では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、主として中学・高校の先生方を対象に、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきていますが、今年度は2010年7月30～31日の2日間、中央図書館のAVホールで開催されました。第10回目に当たる今年度は、国士館大学地理・環境専攻のスタッフ各々が自分の専門における最近の地理学の話題、中でも特に中学・高校の教育内容に生かせる話題提供を目指して、講義およびキャンパス周辺のミニ巡検を行い、25名の中・高校の先生方の参加を受け付けました。プログラムと担当者は下記の通りです。

(岡島 建)

第1日目：7月30日（金）10：00～17：50

●世界遺産は本当にホンモノと呼べるのか？

－地理学におけるオーセンティシティ（真正性）の問題－

内田 順文

●陸が変われば海も変わる－サンゴ礁で考える環境問題の地域性－

長谷川 均

●シカが増えてヤマも変わる

－日本の農山村の生態環境はどのように変化しつつあるか？－

磯谷 達宏

●地球は暖かくなっているのか？－気象データの教材化－

野口 泰生

※交流会（18:00～：参加の先生方と教室スタッフが地理教育について語り合いました）

第2日目：7月31日（土）10：00～17：30

●「都心回帰」はなぜ起こる？－過疎・過密問題の新諸相－

加藤 幸治

●私たちの食卓から考える日本の農業問題

宮地 忠幸

●キャンパス周辺をめぐるミニ巡検

岡島 建・磯谷 達宏



写真1 ワークショップの様子（中央図書館 AV ホール）



写真2 講義（宮地講師）



写真3 ミニ巡検：松陰神社で



写真4 ミニ巡検：世田谷城址公園で

中国巡検(国士館大学国際交流セミナー「中国遼寧省・河北省の都市と文化遺産」)の報告

2010年9月6日～13日の7泊8日の日程で、地理・環境専攻では4回目となる国際交流セミナーが行われた。参加者は学生4名(すべて1年生、うち2名が女子)と大学院修士課程1年の院生1名、そして教員1名の、総勢6名という、これまでより少人数での巡検となったが、そのぶん内容はてんこ盛りの大充実。今回の海外巡検の特徴のひとつは、過去3回の国際交流セミナーが海外提携校の所在地を中心とした滞在型の日程であったのに対し、複数の都市を移動する周遊型の日程を組んだことであったが、大連→瀋陽→秦皇島→承德→北京の約1,000kmを列車とマイクロバスで長駆移動し、瀋陽故宮博物院・昭陵・山海関・老竜頭・承德避暑山荘・外八廟・金山嶺長城の7カ所の世界遺産をはじめ、中国北部のさまざまな景観や風景、自然と文化を十分に観察・堪能してきた。また幸運にも「晴男」である引率者の神通力は今回も発揮され、豪雨被害の出た日本を尻目に、旅行中は1日も雨に降られることなく、大陸の雄大な風景を満喫することができた。

今回のセミナーを通じた国際交流と海外巡検によって、参加学生には中国に関する理解が深まり、また異文化を実際に体験し、多くの外国人と交流を持つことで、国内では得られない経験と自信を得ることができたと思う。また、引率者が担当している講義『旅の地理学』および『レクリエーションと観光』の海外における実践・実習として、海外における観光現象の実態、および観光文化のあり方を理解する上でも大きな効果があったと考えられるし、意図的に日本人観光客の少ない(しかし中国人観光客は非常に多い)観光地を目的地に選択したことで、現代中国や中国文化の実態をよりリアルに観察できたことは貴重な体験であった。参加者の多くは中国が初めてであり、最初の頃こそ日本とあまりに違う中国の文化に当惑したり躊躇したりする場面も多かったようだが(とくに車優先のため歩行者信号が事実上機能しない「危険な」交差点にはショックを受けたようだ)、最終日には引率者なしで街を自由に歩けるほどにまで順応することができたことは、参加学生にとって大きな収穫だったと思う。

なお日程など、今回のセミナーの詳細については、「国士館大学地理学報告」に報告を載せる予定なので、そちらを参照いただきたい。

(引率教員 内田 順文)



写真1 大連空港：いよいよ巡検の開始



写真2 大連外国語学院での交流風景



写真3 地元の人気餐厅でいただく東北料理



写真4 承德避暑山荘で

【2010年度地理学野外実習の記録】

地理学野外実習A（1年生対象）：6月1日（火）～6月2日（水）実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実施地：横浜市寺家ふるさと村，川崎市麻生区古沢地区

参加学生数：82名（男子64名，女子18名）

テーマ：丘陵地の自然環境と人間生活 ―映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く―

目的：多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い，地形と土地利用の関係，都市化・宅地化の進行の特徴とその要因等について考察することを通じて，地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課題：図表を含めて400字詰め原稿10枚以上相当のレポート。
提出日時 … 7月20日（火）5限「地域調査法」授業時間



1日目：寺家ふるさと村で土地利用を調査



2日目：里山の土地利用と植生を観察（川崎市麻生区）

地理学野外実習B（2年生対象）：10月4日（月）～10月5日（火）実施

◎野口

実施地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：9名（男子6名，女子3名）

テーマ：霧ヶ峰高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する。

内容：事前課題，現地での観察，霧ヶ峰自然保護センター見学

課題：1) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけについての学習
2) 霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的・生態学的位置づけについての学習
3) 霧ヶ峰と人的関わりについての学習（縄文時代から今日まで）



野口班：霧ヶ峰高原にみられる獣害対策の柵

◎長谷川

実施地：三浦半島，江ノ島

参加学生数：13名（男子9名，女子4名）

テーマ：さまざまな海岸地形や地質を観察しよう

内容：三浦半島，江ノ島において砂浜海岸，岩石海岸を観察し，また露頭調査の方法を学習した。

課題：ルートに沿った観察結果のまとめを，20枚でまとめる。



長谷川班：三浦海岸での露頭観察

◎内田

実施地：群馬県富岡市，渋川市伊香保町

参加学生数：13名（男子6名，女子7名）

テーマ：風景の鑑賞法と観光地に与えられた意味の解説

内容：①群馬県屈指の歴史的温泉観光地伊香保温泉～榛名山の自然景観および人文景観（火山と温泉街の風景）を実際に歩いて観察しながら，眼と舌と肌で確かめ，風景論の基礎，および風景の鑑賞法について実習する。

②ユネスコ世界遺産暫定リストに登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」の景観や施設が観光資源としてどのように利用されているのかを，観光地理学および人文主義地理学的視点から考察する。

課題：レポート2本「富岡・伊香保・榛名の風景美について」と「観光地の記号としての富岡・伊香保・榛名」



内田班：榛名神社にて



岡島班：ミーティングの様子

◎岡島

実施地：千葉県佐倉市

参加学生数：11名（男子9名，女子2名）

テーマ：近世城下町佐倉の近現代における変遷

内容：佐倉市街地における現地調査，国立歴史民俗博物館の見学

課題：標記のテーマについて，所定の分量のレポートを作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。



磯谷班：縞枯山にて植生を調査

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：12名（男子11名，女子1名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。

課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について，図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。

◎加藤

実施地：東京都品川区

参加学生数：14名（男子13名，女子1名）

テーマ：品川区における「工場跡地」の利用
－産業構造の転換と地域－

内容：品川区内に15年前（1995年初）に立地していた工場（30人以上）の「その後」を調べる。現存する工場とその特徴（業種・立地の特徴など），跡地利用の状況（転換状況・土地所有など）やその特徴（業種・立



加藤班：ミーティング風景

地の特徴など)を調査し、都市の土地利用変化について考察する。それを通じて、経済地理学的な見方・考え方・調査法の基礎を学ぶ。

課題：調査結果に関する図を作成し、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。

◎宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：3名(男子1名、女子2名)

テーマ：山村における地域振興策の意義を考えるー農村調査法を学ぶー

内容：山村の地域経済や社会(集落コミュニティなど)の変化とその要因を把握する一方で、地域活性化へ向けた取り組みの意義を、統計資料の収集や土地利用、施設分布、関係諸機関や関係者からの聞き取り調査などを手掛かりに考察する。実習を通して農山村の調査方法を習得する。

課題：1) 事前学習

1. 次の3編の論文について、内容を取りまとめる。①関戸明子(1994)都市との交流事業による地域活性化ー群馬県川場村中野の事例ー。群馬大学教育学部紀要(人文・社会科学編), 43号, pp.173-188.②関戸明子(1993)都市住民との交流によるむらづくり事業の展開。農業と経済, 第59巻14号, pp.124-131.

③中島直子(1992)群馬県川場村における農林業と観光化。お茶の水地理, 33号, pp.45-56.

2. 川場村ホームページから入手可能な統計データについて、各自、データをExcelに入力した後、図や表にまとめ、そこから読み取れる内容をレポートする。また、現象の変化がなぜ生じているのかについて、可能な範囲で調べてレポートする。

2) 事後レポート

事前学習レポート、現地調査結果(図表、写真を含め)を14,000字程度(A4版10枚程度)にまとめる。



宮地班：リンゴ農家でヒアリング

地理学野外実習C(3年生対象)：10月26日(火)～29日(金)実施

◎野口

実施地：千葉県銚子市

参加学生数：13名(男子9名、女子4名)

テーマ：銚子の気候環境について

内容：1) 銚子地方気象台の永年データのグラフ化、2) 銚子市の気温観測(観測と作図)、3) アメダスデータによる銚子の風の特徴について

課題：1) 各自のテーマでレポート作成、2) 銚子の永年データのグラフ化、3) 銚子のアメダスデータ(風)の分析



野口班：銚子気象台で説明を受ける学生たち



長谷川班：雨天のなかの海岸地形調査

◎長谷川

実施地：南房総市千倉町周辺

参加学生数：7名（男子4名，女子3名）

テーマ：段丘地形と海岸地形

内容：海岸沿って分布する新期の段丘地形の調査と海岸地形の調査を2グループに分けて実施した。

課題：30枚程度のレポートを作成。

◎内田

実施地：札幌市およびその周辺地域

参加学生数：6名（男子4名，女子2名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う。

内容：札幌市における風景印・駅スタンプから見た地域イメージ，洞爺湖地域におけるエコツーリズム，『北の国から』と富良野市の観光地化，札幌市の外国語案内表記について，ジンギスカンの食べ方から見た地域の食

課題：各自設定したテーマにしたがって，現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



内田班：美瑛の風景

◎岡島

実施地：富山市および周辺地域

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査

内容例：富山における都市構造の変遷，近世における越中西街道の道路交通の実態と問題点，富山城下町の歴史の変遷と地域構造，歴史的町並みの形成と保存，地方の高速道路における新規インターチェンジ設置の意義とその影響，城下町金沢における辰巳用水の役割と歴史の変遷，富山ライトレールの存在意義と役割，富山県内の民鉄線のバリアフリーについての現状と考察，地方のバス交通の現状と課題

課題：各自のテーマに従ってレポート作成



岡島班：城下町・富山

◎磯谷

実施地：高知県奈半利町とその周辺地域

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：高知県東部の生態地理

内容：高知県東部でみられる動植物の生態地理について，各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは，「二次林（雑木林）の樹種構成」，「海岸草原の種組成」，「河辺草原の種組成」，「路傍雑草群落の種組成」，「大型哺乳動物の生態」および「海岸性大型鳥類の生態地理」であった。

課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：神社林の植物を観察中

◎加藤

実施地：長野県中野市

参加学生数：14名（男子11名，女子3名）

テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う。

内容例：・中野市の中心商店街の現状

・中野市における工業団地立地企業の進出理由

・中野市における観光農園と農家経営

・北信地域の道路交通体系とその変化

・北信地域の労働市場とロードサイドストア

・湯田中渋温泉郷における観光動向の変化と旅館経営

課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤班：ミーティング風景



宮地班：移住者が経営する民宿の前で

◎宮地

実施地：北海道清水町

参加学生数：12名（男子11名，女子1名）

テーマ：農山村における地域問題を考える

内容：・畑作農家の規模拡大過程と経営農地の空間分布の特徴
 ・酪農家の多頭飼育化にとまなう経営問題
 ・特産品開発と地域ブランド化の取り組み実態
 ・過疎問題の形成過程と過疎対策の実態

課題：1) 事前学習 夏休みの間に、班ごとのテーマに沿った文献3編以上を読み、その論文の①問題の所在，②研究目的，③研究方法，④当該論文が実習調査でどのように役立ちそうか，についてレポートにまとめる。
 2) 事後レポート 班ごとの調査結果を、『卒業論文の手引き』を参照し，28,000字（図表，写真を含む；A4版20枚）以上のレポートにまとめる。

国土館大学地理学会夏季巡検「横須賀の歴史と自然」レポート （9月7日〔火〕実施）

引率要請の話聞いたときは少しだけ「面倒かな」と思うものの、終わってみれば必ず「行って良かったな」と思えるのが学会巡検である。以前は1泊2日の日程で富士五湖方面や嬬恋村方面に行ったほか、日帰りで等々力渓谷を見て歩いた。今回は日帰りで、三浦半島の観音崎と横須賀市内での巡検だった。

巡検で真に得られたものは行った者にしかわからないので、行動記録の詳細は述べてない。概要としては、9月7日に、浦賀→観音崎（自然博物館見学を含む）→横須賀市内（ヴェルニー公園、どぶ板通りなど）→横須賀市自然人文博物館と、10名で見て回った。猛暑の日だったので、博物館見学が適度に含まれていたのは良かった。個人的には、基地の町横須賀らしいヴェルニー公園付近のランドスケープづくりが面白かった。もちろん、久しぶりに訪れた観音崎の海岸植生も見飽きないものだった。対岸の房総半島がくっきりと見通せたのも良かった。

今回の企画は、幹事役の永井麻由佳さんと井垣知佳さんが周到に準備してくれたので、引率担当教員としてはありがたかった。原案に対して少しアドバイスをただけで、よい行程を考えてくれた。永井さんの地元への愛着がベースにあった。このような幹事役の経験は、なかなか得難いものなので、他の学生たちにも率先して経験してほしいと思う。

最近、本学大学院で、非常勤講師の沖津進先生が頻繁に「歩きまわり巡検（+反省飲み会）」を企画してくださり、本学大学院に大きな活力を与えてくれている。地理・環境の世界では、やはり、「まずはフィールドを徹底して歩くこと」がとても重要である。それまで歩いた



写真1 観音崎にて海岸の地形と植生を観察中

ことのないフィールドを歩きまわって見聞きすることで、「大切な何か」が蓄積されていくのであろう。極論すると、好投手が徹底的なランニングで基礎体力を作ると似ているのかもしれない。巡検は一人で行っても有効であるが、仲間と議論しながら行くと効果が倍増する。

というわけで、巡検の実施は参加する学生（とくに幹事役）にとっても引率教員にとっても素晴らしいことである。日帰り、泊まりがけを問わず、今後も学会巡検が活発に行われることを期待したい。

(磯谷達宏)



写真2 横須賀ヴェルニー公園にて

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

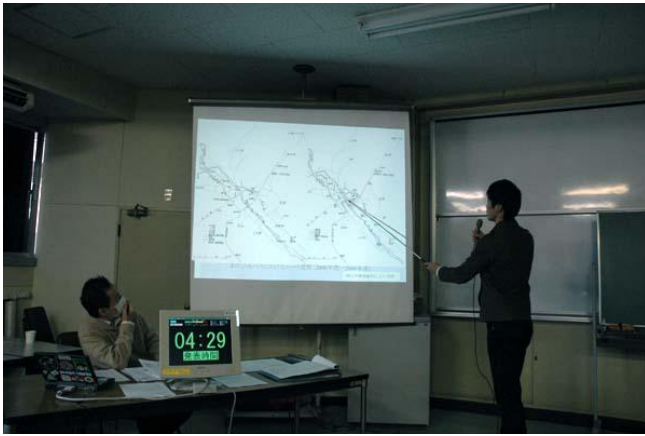
就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2011年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2011年2月5日（土）10:50～、7日（月）・8日（火）9:20～
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

- ※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。
- ※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。
 1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
 2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で書き直すこと）。
 3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
- ※ 発表では、スライドやOHP、PCプロジェクターも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（内田）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続替え等に時間を取られないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。
- ※ **3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。**2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。



(昨年度の卒業論文公開口答試験の様子：国士舘大学地理学教室HP地理・環境専攻写真帖No.258 より転載)

2010 年度卒業論文公開口頭試験日程

番号	氏名	主査	副査	題目
2月5日(土) 10:50~11:50 <進行：加藤>				
1	大野 祐樹	宮地	野口	地域ブランドの確立による地域農業の発展へ向けた取り組みと課題 ー山梨県笛吹市一宮地区を事例にー
2	矢口ひとみ	宮地	内田	千葉県安房地域におけるリゾート開発がもたらした地域経済効果に 関する考察
3	網野 拓人	野口	磯谷	長野県南部における風の特徴：松本の南風との関連について
2月5日(土) 12:40~15:30 <進行：宮地>				
4	梶村しずか	岡島	内田	埼玉県川越市における重伝建地区の町並み保存と保存運動の展開
5	小坂 真耶	磯谷	長谷川	東限におけるイヌガシ (<i>Neolitsea acciculata</i>) 個体群の分布と生育 環境について
6	林 亮佑	野口	磯谷	松本盆地における冬期南風の発生について
8	根岸 暢	長谷川	野口	沖縄県多良間島における海浜堆積物の粒度分布について
11	中島 龍也	岡島	内田	土浦城下町の歴史的変遷と地域構成
13 [◎]	中馬 裕希	宮地	加藤	乗合バス事業規制緩和に伴う新規参入バス事業者の実態と既存事業 者・自治体の対応 ー埼玉県三郷市を事例としてー
14	石坂 有希	内田	磯谷	博物館の存在意義と教育普及活動との連携 ー埼玉県立さきたま史跡の博物館を事例にー
18	浮須 裕輝	長谷川	磯谷	神津島北西部における斜面崩壊の実態と海岸部のり面崩壊の危険要 素の検討
19 [◎]	古山 晴香	加藤	内田	近年におけるファミリーレストランの立地展開 ー千葉県を中心にー
2月5日(土) 15:40~18:10 <進行：内田>				
20 [◎]	関口 直人	岡島	加藤	地方ローカル線の利用実態と課題 ー三陸鉄道を事例にー
21 [◎]	奈良場慎一	加藤	岡島	新潟県古町商店街における現状と課題
23	堀川 大輔	宮地	野口	さつまいも関連製品における農商工連携の地域的意義と課題 ー埼玉県川越市とその周辺地域を事例としてー
24	飯田 亜紀	宮地	野口	ブルーベリー栽培の展開と特産品開発の地域的意義 ー東京都小平市を事例として ー
25	雨森 萌子	岡島	長谷川	近世関宿城下町の変遷過程
27 [◎]	橘 千尋	加藤	岡島	世田谷区における喫茶店の立地展開
28	高橋麻里亜	内田	長谷川	調理法とメニューからみたインド料理店の特性 ー東京都新宿区の事例ー
29 [◎]	孫 欣	長谷川	磯谷	長江河口域における堆積島の成長 ー地形図・時系列衛星データに基づく考察ー

2月7日(月) 9:20~12:10 <進行:長谷川>

- 34◎ 梅澤 直輝 加藤 宮地 所沢市の人口動態と土地利用の変化
35◎ 福地裕美子 岡島 磯谷 重要文化財と災害による被害の関係性 -東京23区を事例として-
36◎ 伊藤 規貴 宮地 磯谷 横浜市における都市農業振興政策の展開とその効果
-都筑区と緑区を事例として-
37◎ 富塚 哲史 宮地 加藤 福島県阿武隈高地における葉タバコ栽培の意義
39 門倉 浩司 加藤 岡島 大森における海苔問屋の現状
40 佐々木 渉 加藤 野口 広島駅前再開発における土地利用の変化と各地区の比較
41 盧 娜 加藤 内田 秋葉原におけるソフトウェア企業の立地と中国系ソフトウェア企業
の特徴
42 亀元健太郎 岡島 内田 鎌倉市の歴史的景観の変遷過程
44 丸山 達也 岡島 宮地 横浜市港北ニュータウンの企業誘致

2月7日(月) 13:00~15:50 <進行:岡島>

- 45 吉本 裕耶 宮地 野口 都市近郊地域におけるグリーンツーリズムの展開と課題
-千葉県船橋市金杉谷津田アーバン・グリーン・ツーリズム協議会
を事例に-
46◎ 市川 桃子 宮地 加藤 学校給食にみる地産地消活動の地域性と存立条件
-埼玉県を事例に-
47 松本奈津美 長谷川 磯谷 裾礁海岸における海岸砂丘の発達 -沖縄県多良間島を例に-
48 遠藤 駿 磯谷 野口 佐渡島のスギ人工林内に侵入した広葉樹の標高ともなう種構成の
変化について
49 安田 雅之 野口 長谷川 佐渡島における地上風系 -海陸風を中心に-
50◎ 宮崎 正剛 加藤 内田 福岡県飯塚市におけるロードサイド型店舗の立地展開
53◎ 小野里 恵 長谷川 磯谷 日本における流れ山地形の分布と比較
54 瀬戸口裕史 宮地 長谷川 酒類の消費低迷下における焼酎醸造業の地域ブランド形成の実態
-鹿児島県鹿屋市の酒造メーカーを事例として-
55 佐野 祐基 岡島 宮地 コミュニティバスの路線再編による地域内交通網の変化について
-埼玉県川越市を事例として-

2月7日(月) 16:00~18:10 <進行:加藤>

- 56 青柳 太悠 岡島 宮地 地方ローカル線の経営移管と利用実態
-ひたちなか海浜鉄道を事例に-
57 岡田 翔子 長谷川 野口 地形から見た雪崩発生の危険度評価 -長野県旧穂高町を例に-
59◎ 柳村 大地 宮地 磯谷 中山間地域における耕作放棄地対策の現状と課題
-岩手県一関市を事例に-
60 須永 治 加藤 内田 埼玉県羽生市における衣服工業の現状
63◎ 青木 恭子 長谷川 磯谷 山梨県御勅川扇状地の地下構造
64 片倉 徹也 岡島 野口 近世城下町の近代における変遷過程 -浜松を事例に-
67 小林 慎一 野口 長谷川 筑波おろしについて

2月8日(火) 9:20~12:10 <進行:磯谷>

- 68 千葉 隼人 内田 宮地 小中学校校歌の歌詞から見た地域景観イメージについて
-茨城県南東部を例に-
69 藤枝さやか 岡島 内田 呼称「湘南」の範囲と変化
71 寺澤美由貴 加藤 内田 国道467号線における近年のロードサイドストアの立地展開
72 王 丹 内田 長谷川 来日中国人観光客の観光行動
-中国・台湾・香港の観光客の観光行動の比較-
74 畠山 安曇 野口 長谷川 関東内陸部における高温発生の特性について
-埼玉県・群馬県を例に-
75 樋口 覚 加藤 岡島 横浜市都筑区における土地利用変化と地価変動
76 鈴木 弘憲 宮地 磯谷 農産物直売所の存立条件とその持続性
-静岡県中遠地域の農産物直売所を事例に-
77◎ 阿部 智哉 野口 長谷川 関東地方の強雨について
84 猿橋 祐輔 内田 岡島 映画『耳をすませば』のロケ地におけるイメージの比較と要因

2月8日(火) 13:00~15:50 <進行:宮地>

86	本間祐一郎	内田	岡島	横須賀線開業に伴う武蔵小杉駅利用者の行動変化
94	渡邊 慧	加藤	磯谷	下北沢における衣料店の現状
98	亀田 森彦	内田	野口	アジアを旅する日本人バックパッカーの実態から見た新しい旅のスタイル
113	佐々木貴宏	内田	宮地	キャラクターを用いた地域振興 —秋田県羽後町を例に—
114	戴 志華	加藤	長谷川	日本におけるアダルトビデオショップの現状と展望 —日本のアダルト文化 中国への展望—
118	森 勝儀	加藤	磯谷	伝統的畑作農耕システムにおける平地林の存在意義 —埼玉県所沢市富岡地区を事例にして—
119	翟 迎春	野口	長谷川	東京と名古屋における降水の特性
124	小俣 寛国	磯谷	野口	さいたま市西部に分布する小規模社寺境内における樹種構成
125	山口 賢治	岡島	磯谷	近現代における城下町起源の都市古河の地域変容

◎ GIS 学術士資格希望者

【国土舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国土舘大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払いください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うこととなりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国土舘大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

Web版では非掲載にしています

重要事項！必ず読むこと！

研究室，図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は，卒業資格を満たしていないとみなします。